

今年度の取組目標と方策

1. 教育活動の目標と方策

(1) 進路指導部主導の組織的な進路指導を推進し、希望進路の実現を図る。

○東京都教育委員会から「進学指導研究校」の指定を受け、様々な取り組みを行った。本校生徒の成績と進学先との相関から、本校の進路指導上の課題が見えた。大学の入学定員の厳格化と大学入試新テストに対応するため、様々な取り組みを行った。成績上位者の集会、学習塾との連携、フィードバックシステム導入、模試分析会（及びケース会議）の実施を行った。校内研修会等は、該当学年、並び担当分掌、関わりの深い教科担当の参加は悉皆とした。

○学校評価：生徒の進路指導満足度 84.3%（昨年度 81.9%）

○杏林大学とのAP連携によるラウンドテーブルに出席し、私立も含めて新教育課程・新入試への対応動向等に関する情報を入手した。また、桜美林大学・東京経済大学とも連携を継続した。

➤課題

大学入試新テストに対応するために、英語では4技能を伸ばす授業改善や外部検定試験を推奨していく。また、蓄積した知識を活用して考え、課題を解決していく地頭を育てる。今年度、新教育課程の基となるグランドデザインが完成したことを受けて、生徒が、予想される社会変化の中で、自身の価値が見いだせるよう、また、逞しく生きて行くことができるように、主体的・対話的で深い学びを推進していく。以上の課題解決を加速するため、「令和2年度 進学指導研究校アソシエイト」に応募して、この3月に指定を頂くことができた。また、「令和2年度 アクティブ・ラーニング推進校」に応募し授業改善を推し進める予定である。

(2) 学習指導の充実を図る。

○東京教師道場で研修中、並びに道場経験者によるアクティブ・ラーニングの研究授業・公開授業を実施した。また、若手教員・中堅教員成研修の研究授業・公開授業も活用し、対話的な深い学びになるような授業構築について経験を積ませた。どの授業公開も教科の枠を越えて、平均10名程度の参加が有り、授業後の講師を招いての協議、指導・助言でも活発な質疑応答があった。

学校改革の最大の本丸は「授業改革」である。管理職による授業観察を通して、授業要素・授業力項目を具体的に指摘して授業改善を進めている。

（授業観察評価シート・別紙参照）

○学校評価：生徒の授業満足度 75.1%（昨年度 81.7%）

ICT機器や、生徒への発問を意識したアクティブ・ラーニングを採り入れた教員は49名中、18名（昨年度14名）となった。今後、引き続きアクティブ・ラーニングを通して、主体的・対話的で深い学びに導く授業改善を進めていく。また、上述したとおり「令和2年度 アクティブ・ラーニング推進校」に応募する。

(3) 基本的生活習慣の定着を図ると共に、規範意識を育む。

○生活指導面については、日頃の学習秩序を乱すような特別指導は少なく、落ち着いた学校生活が行われているが、SNS等の不適切な利用による問題行動が増加傾向にある。セーフティー教室の工夫や保護者との連携を通して、メディアリテラシー教育の充実を図っていく。女子生徒に関しては、痴漢（未遂）、盗撮等の被害（連絡・相談）が引き続き発生している。危機管理の教育と、Formal（学校生活）と private を弁え、学業が疎かになるようなおしやれは慎ませる。女子生徒の適正なスカート丈について2年前より指導を開始した。

○学校評価：生徒の生活指導満足度 68.2%（昨年度 67.9%）

課題

組織的で一貫性のある指導展開が道半ばのため、高校生に相応しい立ち居振る舞いの定着が、今一步である。1学年は、ほぼ規則を遵守しているものの、学年進行につれて指導を素直に傾聴しない生徒が散見されるようになる。

（４）教育相談機能の充実を図る。

○教育相談委員会を定期的で開催し、HR 担任・教科担当・生活指導が情報を共有・管理し、配慮が必要となる生徒を組織的に、一貫した指導ができるシステムの基盤ができた。スクールカウンセラーや主任養護教諭との連携も進み、規範意識や安全意識を育むために必要な、時には毅然とした指導と、特別支援教育や合理的配慮、また心のケアなど個に応じた指導の両輪が整いつつある。

（５）部活動充実校を標榜する学校として部活動・特別活動等の充実を図り、学校生活に意欲をもたせる。

○文化スポーツ特別推薦を行っている部活動を中心に実績は安定しているが、突き抜けた実績を示す部活動がない。スポーツ特別強化校に指定されているボクシング女子においては全国大会にて3年連続の準優勝となった。なお、当該生徒は、東京都教育委員会の児童・生徒等表彰に選ばれた。

○部活動加入率は 50%（目標 80%）であった。（昨年 62%）

○部活動満足度「76.8%」（昨年度 73.6%）

課題

部活動加入率

平成27年度 73%

平成28年度 71%

平成29年度 62%

平成30年度 56%

平成31年度 50%

生徒数に対して、設置されている部活動の種類が少ない。専門で指導できる教員・外部指導員が不足している。

（６）本校の教育を広く紹介し、「志」の高い生徒の募集を推進する。

○本校 Web サイトのアクセス数は、約25万回以上を連続でクリアした。

平成27年度 13万回以上

平成28年度 15万回以上

平成29年度 25万回以上

平成30年度 25万回以上

平成31年度 26万回以上

○計画的な募集・広報活動により、入選倍率は、推薦、前期入試共に昨年度よりも高倍率となった。

推薦 前期

平成26年度 4.10 1.59（建替え発表前）

平成27年度 2.90 1.43

平成28年度 3.67 1.32

平成29年度 2.80 1.35

平成30年度 2.86 1.36

平成31年度 3.32 1.52

課題

来年度、新校舎移転を契機に、より見やすい Web サイトに更新予定
新校舎移転に伴う充実した教育環境と併せて、魅力的な授業についても積極的に発信していく。
推薦枠の文化スポーツ推薦、後期募集については今年度の実績を分析し、来年度の入試形態を検討していく。

2. 重点目標と具体的な目標

(1) 組織的に進路指導を推進し、希望進路の実現を図る。

○センター試験受験者	100名以上	98名
○難関私立大学又は国公立大学合格者	1名以上	0名
○GMARCH 合格者	5名以上	4名
○日東駒専合格者	30名以上	10名
○4年制大学への進学率	50%以上	42% (昨年度35%)
○進路未決定率	10%未満	10%
○就職希望者決定率	100%	100%継続

(2) 学習指導の充実を図る。

○補習及び講習	毎週実施	年間を通して実施
○長期休業中の補習・講習	50講座以上	55講座
○図書館利用者数	昨年比10%増以上	仮設のため昨年並み
年間利用者数	900名	
貸出冊数	1,400冊	

(3) 基本的生活習慣の定着を図ると共に、規範意識を育む。

○頭髮違反	0	装飾品(女子を中心に各HR5名程度)	女子スカート丈指導継続
○遅刻	年間延べ人数5000以下	9,882回	
(ア) 特別指導件数	5件以下	7件	
(イ) いじめ、体罰	0件	0件	

(4) 部活動充実校を標榜する学校として部活動・特別活動等の充実を図り、学校生活に意欲をもたせる。

※部活動充実校5年目

(ウ) 野球部	西東京大会ベスト32以上	達成せず
(エ) サッカー部	都大会ベスト8以上 Tリーグ昇格	都32
(オ) 女子バスケットボール部	都大会ベスト16以上・関東大会出場(5年以内)	都64
(カ) 女子バレーボール部	都大会ベスト16以上・関東大会出場(5年以内)	都32
(キ) ボクシング部(スポーツ特別強化校)	関東大会出場継続、関東大会優勝	関東優勝
	全国大会(インターハイ、全国選抜大会、国体)	女子全国2位
(ク) 陸上競技部	都大会連続出場	継続
(ケ) 和太鼓部	全国総合文化祭出場	2回目出場
(コ) 部活動加入率	80%以上	50.0%

(5) 本校の教育を広く紹介し、「志」の高い生徒の募集を推進する。

(サ) 推薦入試	3.5倍以上	3.32倍
(シ) 入学者選抜倍率(前期入試)	を1.4倍以上	1.52倍
(ス) HP年間アクセス	25万回以上	26万回以上達成
(セ) 学校説明会来場者数	2000名以上	2,439名(昨年度 2,254名)
(ソ) 学校見学者数	2500名以上	2,825名(昨年度 4,268名)

(6) 組織的な学校運営を推進し、生徒や保護者・地域から満足のいく学校をつくる。

・ 生徒学校満足度	80%以上	87.1%
・ 保護者・地域の学校満足度	80%以上	87.1%